



No.126  
2004 - 1 - 14

日本教育工学会ニューズレター

Japan Society for Educational Technology

事務局:〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-17-1 虎ノ門5 森ビル(視聴覚ビル) 2階  
電話 / FAX : 03-5251-2133 e-mail : jet-office@japet.or.jp  
日本教育工学会ホームページ http://www.japet.or.jp/jet/

ISSN 1340-9913

年頭挨拶

## JSET(ジェイセット)元年を迎えて

日本教育工学会 会長 清水康敬

### 1. JSETのキックオフ

1983年に本学会が創立されて以来、本学会の英文略称はJET(ジェット)と呼ばれてきました。このいきさつは分かりませんが、本学会の英称はJapan Society for Educational Technologyですので、頭文字をとるとJSETとなります。外国人研究者からJETの意味と理由を聞かれたこともありました。国際的に見ても分かりやすい英称が重要であると感じてきました。

そこで、本学会創立20周年を迎えるにあたり理事会評議員会等で英称の変更を検討していただきましたところ、理事・監事・評議員の全員から賛同をいただきました。その結果、本年4月から本学会英称をJSET(ジェイセット)と改訂することになりました。

それに伴って今後は理事会にご相談しながらJSETのロゴマークのデザインをしたいと考えています。また、JSETのデザインを使った学会論文誌の表紙デザイン、ニューズレターのデザイン、学会ホームページのデザイン等も検討課題となります。さらに、会員データベースを新たに開発していますので、よりきめの細かい会員サービスができるように学会ホームページが改良される計画です。

また、JSETのキックオフと共に創立20周年という点では、6月19日(土)に開催される第20回通常総会と、9月23日(木、祝日)~25日(土)開催の第20回全国大会が記念すべき事業となるかと思えます。会員におかれましては、どうぞよろしくご予定いただきたく願います。

### 本号目次

会長挨拶-----	1	冬の合宿研究会開催のご案内(第2報)-----	8
ショートレター増刊号のお知らせ-----	3	秋の産学協同セミナーの報告-----	10
論文誌特集号のご案内(最終報)-----	4	第10期第5回理事会議事録-----	11
研究会開催案内・研究会の発表募集-----	6	新入会員/学会日誌等-----	12

## 2. 海外における学校教育の情報化の進展と本学会

昨年10月に(社)日本教育工学会の海外調査で3年ぶりに米国の学校をいくつか訪問しましたところ、学校の情報環境整備と教員のIT活用の点で大幅な進展をしていました。インターネットに接続されたコンピュータ台数が、2002年秋の段階で生徒4.8人に1台の割合になり、92%の教室がインターネットに接続されています。これらは我が国がさらに大幅な差をつけられたことを意味しています。また、手書き入力できる電子情報ボードの普及が進み、簡単な操作でコンピュータを使っているという時代になってきました。

ITを活用した教員の指導力向上にも著しいものを感じました。多くの先生がコンピュータやインターネットを活用した授業に情熱的でした。そのとき、ISTE (International Society for Technology in Education)が作成したNETS (National Educational Technology Standard) for Teachersが全米各地区、各学校区、各学校で有効に活用され、それによって教員の指導力が向上しているように思いました。このように米国の学会の成果が学校教育に大きな影響を与えております。JSETとしても、創立20周年を迎えるのを機会にもう少し教育界に影響力をもつ活動をしていく必要性を感じています。これには世界の状況を把握しながら今後の展開を検討していきたいと考えています。

尚、以下の国際シンポジウムが国立教育政策研究所と文部科学省の主催で開催されますので、本学会も協賛団体として参加して本学会員にご案内していきたいと思っております。

第3回教育改革国際シンポジウム：

今後の教育の情報化推進の国際動向～ポスト2005の日本を考える～

基調講演は文部科学省審議官を予定。米国、英国、韓国、シンガポールから政策担当者あるいは政策研究者を4人招聘してプレゼンテーションの後パネル討論が行われる予定。

日時：2004年3月15日(月)13:30～17:30 場所：一橋記念講堂

## 3. 学会評価の向上を目指して

本年4月1日から国立大学と大学共同利用機関が独立行政法人に変わります。それに伴って私立大学も危機感を高めています。この関係から大学は説明責任がより必要になりますし、大学評価がより重要になってきております。大学全体の評価から、学部・研究科、学科・専攻に対する評価となり、研究者や教育者等の個人に対する評価が求められています。

そのためか、大学関係者の学会における発表が最近多くなり、投稿される論文数も増えています。そこで、本学会では研究成果の発表の場としての論文の投稿、全国大会での発表、研究会での発表等を積極的に受け入れていきたいと思っております。ただし、よりキチンとした審査が求められると思っております。

本学会の大会や研究会で発表をし、本学会に論文投稿をすることが社会的に高い評価を受けるという学会を目指したいと思っております。そのためには会員の方々のご協力を得て役員や各種委員会委員の努力も必要と考えています。本学会の会員の研究成果が最終的には本学会論文誌に投稿され、厳格な審査の下に採択されることが最も重要なことです。論文にまとめるための支援も必要になると考えている次第です。

## ショートレター増刊号の論文募集のお知らせ（第2報）

### 日本教育工学会論文誌 Vol.28, Suppl.の発行

**論文受付締切：平成16年4月5日(月) 編集委員会事務局必着**

日本教育工学会論文誌 Vol.28, Suppl.は、年1回発行されるショートレターの増刊号です。投稿規定および原稿執筆の手引きを参照の上、奮ってご投稿下さい。

ショートレターの採録条件は、Vol.27より以下になりましたのでご注意ください。  
(詳細は、JET117号 学会HPより取得可能 <http://www.japet.or.jp/jet/> を参照)

1. ショートレターは、刷り上がり4ページ厳守。(4ページを超えるものは採録しない)
2. ショートレターでは、筆頭著者(ファースト・オーサー)は本学会会員であることが条件です。あるいは、筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費等を納入することが必要です。なお、各会員は本ショートレターを年1編に限り投稿できます。
3. 平成16年12月に発刊の予定です。

ショートレターの内容については、例えば、以下のような内容が考えられます。

- ・ 全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- ・ 教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- ・ 教育システム開発など
- ・ 教育工学研究としての速報的な内容
- ・ 卒業論文や修士論文等としてまとめた内容、など

なお、ショートレターで掲載された内容を、研究的に発展させてまとめて、論文採録の条件を満たすと思われる内容は、学会論文誌に投稿することができます。

投稿論文の送付先：

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学教育工学開発センター内

(石川台6号館4階) 日本教育工学会 編集委員会

# 日本教育工学会論文誌

## 特集号「ICTを用いた科学技術教育」のご案内（最終報）

21世紀を迎え、科学はますます発展・広域化しつつあり、高度な資質を持った技術者、研究者の養成が不可欠となりつつあります。一方、近年、わが国の児童・生徒の「科学技術離れ」「数学嫌い」「理科離れ」の懸念が、教育現場のみならず、社会の各界各分野で表明されています。これらの意味でも、「科学技術創造立国」を実現していくためには、新世紀の視点にたった新しい枠組みで、将来の科学技術を担う児童・生徒に自然についての知的好奇心、探求心を高め、論理的思考力や創造性を伸ばし、科学技術や理科・数学に対する興味・関心を培っていくことが必要不可欠です。さらに、高度情報化社会の進展に伴い、主体的に自ら考え判断できる人材が求められています。現在、インターネットの活用などにより児童・生徒が個々の興味や関心に合わせて、知的好奇心を深めながら主体的に学ぶことが可能となりつつあります。これを飛躍的に高めるような、ICT(情報通信技術)を活用した新たなカリキュラム・教授学習システムを開発し、科学技術の飛躍的な発展の基盤となる人材の育成を強力に進めることも期待されています。科学研究費補助金・時限付分科細目「科学高等教育」や、科学研究費補助金・特定領域研究「新世紀型理数系教育の展開研究」(理数科系教育)においても様々な研究アプローチが精力的に推進されています。

このような背景を踏まえて、日本教育工学会では、ICTを用いた科学技術教育について、新たなカリキュラム・教育方法・教育システムデザインの開発、WBT(Web Based Training)など、eラーニング・システムおよびコンテンツの開発、ならびに教育実践によるシステムの分析、評価、調査研究等を広く扱った特集号を企画しました。下記要領により、初等・中等教育、高等教育、生涯教育、職業教育についての研究を広く募集いたします。これらの分野で研究や教育実践をしておられるかたはふるってご投稿くださいますようお願いいたします。

### 1. 対象分野

- ICTを用いた科学技術教育、理工系教育に関する新しいカリキュラムとインストラクショナル・デザイン
- ICTを用いた科学的知識、技術力、論理的思考力、創造性を育成し、科学技術への興味・関心を高めるための教育内容や教育方法、教材の開発
- 情報化が児童・生徒の科学技術への興味・関心と科学技術に関する能力に与える影響などの分析
- eラーニング・システムを用いた科学技術教育、理工系教育の実践および分析
- その他ICTを用いた科学技術教育、理工系教育に関するあらゆる分野

## 2. 募集論文の種類

通常の論文誌同様に、論文、資料、寄書を募集します。投稿規程ならびに査読は、通常の論文誌の場合と同じです。なお、ショートレターとして既に掲載されている内容あるいは研究会や全国大会で発表された内容を発展させ、論文として投稿することも可能です。

## 3. 論文投稿締切日

2004年2月2日(月)(2004年12月発行予定)

## 4. 論文送付先及び問い合わせ先

普通郵便(書留にはしない)、宅配便、持参とする

〒152-8552

東京都目黒区大岡山 2-12-1 東京工業大学教育工学開発センター内

(石川台 6 号館 4 階) 日本教育工学会 編集委員会

[jet-editor@japet.or.jp](mailto:jet-editor@japet.or.jp)

## 5. 学会 HP

<http://www.japet.or.jp/jet/>

## 6. 特集号担当編集委員会

本特集号では、特集号担当編集委員会を組織し、より広い範囲で「ICTを用いた科学技術教育」についての論文を募集したいと考えております。多数のご応募をお待ちしております。

編集委員長 矢野米雄(徳島大)

副編集委員長 植野真臣(長岡技術科学大学)

委員(50音順)

赤堀侃司(東京工業大学)

池田満(北陸先端科学技術大学院大学)

大島純(静岡大学)

柏原昭博(大阪大学)

近藤勲(岡山大学)

佐々木整(拓殖大学)

永岡慶三(メディア教育開発センター)

永野和男(聖心女子大学)

守屋誠司(京都教育大学)

山内祐平(東京大学)



## 研究会の開催

## テーマ 協調学習と e-Pedagogy

日 時：2004年1月24日(土)

会 場：電気通信大学 西地区 情報システム学研究科棟 (IS棟)  
2階 大会議室 (233号室)

開催担当：松居辰則 (電気通信大学大学院 情報システム学研究科)

研究会は当日受付にて同研究会の報告集 (1,000円) をご購入いただければ、一般の方でも参加可能です。

プログラム：

発表時間：発表1件につき25分 (発表20分程度、質疑5分程度) の持ち時間です。

開会 9:00

午前の部 (9:10~11:50)

- (1) 教室講義における授業評価・理解状態と補習用Web講義へのアクセス状況の関係の分析  
赤倉貴子・田中歩・伊藤和樹 (東京理科大学工学部), 桑田悟 (東京理科大学大学院工学研究科)
- (2) 理解度把握ができるVOD型遠隔教育システムの開発とその評価  
桑田悟 (東京理科大学大学院工学研究科), 赤倉貴子 (東京理科大学工学部)
- (3) 中小製造業向けe-Learning Systemの開発  
- 中小製造業における教育実態調査に基づくシステム導入効果の検討 -  
白沢勉 (東京理科大学大学院工学研究科), 倉本悠輔・古藤和之・赤倉貴子 (東京理科大学工学部)
- (4) 日本語教師の教材制作支援サイト「みんなの教材サイト」の構築と運用  
島田徳子・古川嘉子・久保田美子 (独立行政法人国際交流基金日本語国際センター)
- (5) 教員養成のためのe-Learningにおけるe-Moderating Methodの開発に関する研究  
小柳和喜雄 (奈良教育大学), 堀田龍也 (静岡大学情報学部), 山内祐平 (東京大学大学院), 木原俊行 (大阪市立大学大学院)
- (6) 協調学習支援環境 iDAP  
田村恭久・河野幸雄・佐々木大輔 (上智大学), 姫田麻利子 (大東文化大学), 岡本敏雄 (電気通信大学大学院)

----- お昼休み (11:50~13:10) -----

【パネル討論会】(13:10~15:10)

テーマ：協調学習とe-Pedagogy

パネリスト：岡本敏雄 (電気通信大学大学院), 小柳和喜雄 (奈良教育大学), 永岡慶三 (メディア教育開発センター/総合研究大学院大学), 西之園晴夫 (佛教大学)

司会：正司和彦 (兵庫教育大学)

午後の部 (15:20~18:00)

- (7) e-Learningシステムにおける統合的評価機構  
松居辰則・関満徳・廖曉飛・関一也・岡本敏雄 (電気通信大学大学院)
- (8) 教授知識の動的な管理機構を備えた英会話学習支援システムの開発  
梅村和弘・関一也・松居辰則・岡本敏雄 (電気通信大学大学院)
- (9) メール型コメント集約ツールの開発と授業実践における評価  
安藤明伸 (宮城教育大学)
- (10) 中学校英語科 (選択教科) のライティング学習における簡略ポートフォリオの有効性  
松崎邦守 (千葉県・高柳中学校 (東京工業大学大学院))
- (11) メディア英語のクラスにおけるDebateやPresentation用資料としてのmedia活用  
- Content-Basedの授業における学習動機付けとグループ学習の観点から -  
田中雅子 (東京電機大学情報環境学部)
- (12) 手書き入力電子教材による筆順や計算過程の指導と評価  
原克彦 (園田学園女子大学), 梶本佳照 (三木市立教育センター), 尾崎さとみ・藤本辰男 (三木市立緑が丘東小学校), 伊藤剛和 (園田学園女子大学), 石垣一司・田村弘昭・岩山尚美 (株式会社富士通研究所)

閉会の挨拶 18:00 研究会委員長

会場：電気通信大学 西地区 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

・周辺地図：<http://www.is.uec.ac.jp/map/index.html>

・アクセス方法：京王線の調布駅で下車，北口より徒歩10分。調布までは新宿から特急・準特急で15分です。特急・準特急は昼間10分間隔で運行されています。京王線の時刻表は下記URLをご参照下さい。

<http://www.keio.co.jp/train/jikoku031201/index.htm>懇親会：研究会終了後に懇親会を計画しています。多くの方々の参加をお待ちしております。参加される方は会場担当の松居先生までご連絡下さい。連絡先メールアドレス：[matsui-t@ai.is.uec.ac.jp](mailto:matsui-t@ai.is.uec.ac.jp)

会場連絡先：(松居辰則) TEL: 0424-43-5621, FAX: 0424-89-6070

## 研究会の発表募集



### 教師の資質開発（教育方法，運営能力，責任）

日 時：2004年3月20日（土）

会 場：岐阜大学教育学部（柳戸キャンパス）

開催担当：村瀬康一郎（岐阜大学総合情報メディアセンター）

申込締切：2004年2月6日（金）

原稿提出：2004年2月20日（金） PDF形式で電子的に提出もできます。

#### 募集内容：

例えば、総合的な学習の時間や情報教育、教科学習における基礎学力向上や発展的課題設定、ポートフォリオ等の新しい評価方法等の教育内容・方法の分野のみならず、カウンセリングマインドを持った教師、特色ある学校の企画・構築や運用に関する能力など、極めて多岐にわたる資質・能力が教師に求められています。そのような資質・能力を持った教師をいかに育成するか、また研修をとおして現職教員に身につけさせていくかが課題となっております。

本研究会では、これからの教師（大学教官を含め）に求められる力量及びそれを育成するための理論・技術・実践の観点から議論を行いたいと思います。教科学習指導を含め、新しい学習指導形態における指導法開発、コンテンツ・教材開発及び実践例、教員養成・研修方法開発など幅広く発表を募集します。また、教育学一般に関する発表もお待ちしています。

**応募方法：**研究会Web Pageの「発表申し込みフォーム」よりお申し込みください。なお、当該研究会の「発表申込状況」で申し込まれた方の氏名が確認できます。

**申し込み締切：2004年2月6日（金）**です。締切後、申し込まれた方宛に折り返し発表の採択結果を電子メールにて連絡いたします。また、採択された方には執筆要項を電子メールにて送付いたします。

**原稿提出期限：2004年2月20日（金）必着（厳守！）**でお願いいたします。執筆要項に記載された宛先にお送りください。なお、PDF形式（サイズは1Mバイト未満）での原稿の電子的な提出を受け付けます。提出先は、学会本部事務局（jet-submit@nime.ac.jp）です。電子メールに添付して送ってください。

#### 研究報告集年間購読のお勧め



研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。予約価格は年6冊、各研究会平均15件の研究発表で、年間合計500ページほどになります。価格は郵送料込みで3,500円です（当日売りは割高になります）。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル（視聴覚ビル）2階  
TEL/FAX: 03-5251-2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp

#### 研究会の報告

気象状況の影響で定刻よりやや遅れた午前10時10分に研究会を始めた。「地域コミュニティの教育力」をキーワードにした発表と一般発表をあわせ13件の研究発表を、午前4件、午後9件に分けて行った。テーマに関連して「白山麓オープンユニバーシティ構想」、「地域で活動する学生ボランティアの役割」、「地域学習のための指導教材の開発」、「学生による地域企業との連携プロジェクト」等、全国各地のユニークな事例が報告された。また、一般発表は教育政策1件、教育実践関連2件、教師教育関連3件、ネットワーク、データベース関連3件であった。九州、関西、北陸、中部、関東、道内など全国各地から参加した20数名により、研究発表に対する熱心な質疑応答が行われた。午後5時過ぎには正司和彦研究会委員長による挨拶で研究会を閉じた。なお、研究報告集の当日売は11冊であり、予約購読者以外の参加が約半数を占めた。PCとパワーポイントという一般的な発表スタイルの中で、今回はPDAによる発表が目立った。会場校としては、発表者用に演台前のディスプレイにストップウォッチの計時を表示する工夫をした。



12月研究会開催担当：瀬川良明（北海道教育大学教育学部附属教育実践総合センター）

#### 研究会の今後の予定

2003年度の研究会は、今後、以下のように予定されています。

2004年5月22日（土）	『総合的な学習の時間と評価』 （教育測定・評価の理論・方法論も含む）	兵庫教育大学大学院神戸サテライト
---------------	---------------------------------------	------------------

#### 研究会委員会からのお知らせ

研究会に関するご意見・ご希望・魅力的な研究会テーマの提案・研究会での企画などお気軽に研究会幹事、委員までご連絡ください。連絡先は次の通りです。

（研究会全般、研究会Web Page、研究会発表の申込、変更等、原稿執筆）に関するお問い合わせ

研究会幹事 jet-branch@nime.ac.jp

（年間購読、原稿提出）に関するお問い合わせ

学会本部事務局 jet-office@japet.or.jp

# 日本教育工学会「冬の合宿研究会」開催案内

テーマ： 学習デザイン・教材開発を日本科学未来館に学ぶ  
- 新しい研究テーマを日本科学未来館で探索する -

今回の冬の合宿研究会は、東京都江東区に2年前に開館した「日本科学未来館」を会場にします。

この施設を実際に利用しながら、そのグランド・デザイン、運営コンセプト、展示・提示の特徴、オリジナルなコンテンツなどを題材として検討する一種のワークショップを行います。これを通して、学習環境デザイン、教材開発、また科学教育等について、学校教育とは異なる在り方についての理解を深め、新たな知見を得てそれを共有し、今後の研究・教育の参考とすることを目的とするとともに、教育工学の立場からの日本科学未来館への何らかのフィードバックができたかと考えています。

小学校、中学校、高等学校関係者や教育委員会関係者など教育現場に関わる方々、博物館や資料館などの学芸員や解説職員、ボランティアの方々などの幅広いご参加を歓迎いたします。

## 1. 日時・会場等

主催：日本教育工学会 企画委員会

協力：日本科学未来館

日時：2004年1月31日(土) 10:00 ~ 2月1日(日) 16:00

会場：日本科学未来館 (MeSci: ミーサイ)

〒135-0064 東京都江東区青海2丁目4-1番地

Tel: 03-3570-9151

URL: <http://www.miraikan.jst.go.jp/index.html>

最寄り駅：山手線「新橋」駅から「新交通システムゆりかもめ」で「テレコムセンター駅」下車徒歩4分

協力者：境 真理子氏 (日本科学未来館 シニア・リサーチャー)

井上 徳之氏 (日本科学未来館 学校連携グループ グループリーダー)

## 2. 費用と宿泊

参加費：7,000円 (資料代・会場費等 1,000円 昼食代2回 2,000円 懇親会費 4,000円)

なお、合宿研究会のため、全日程参加が原則です。

宿泊：各自で手配をお願いします。

今回は宿泊施設が付属しないため、同一施設での宿泊を前提としない開催となりました。

「合宿研究会」という名称には即しません、参加者は各自ホテル等に宿泊して頂くことになりますことをご了解下さい。

## 3. 参加申し込みの手続き

下記のURLにある申し込みフォームをお願いします。

URL: <http://cert.shinshu-u.ac.jp/et/jet/2003/index.html>



#### 4. 「冬の合宿研究会」の内容とスケジュール

1月31日(土)

10:00-10:30 受付

10:30-10:40 開会 オリエンテーション

10:40-11:00 合宿の目標「未来館に学び未来館へフィードバックする」企画委員会委員長 大谷 尚(名古屋大学)

11:00-11:40 「日本科学未来館のグランドデザイン」日本科学未来館副館長, 企画委員会副委員長 美馬のゆり(はこだて未来大学)

11:40-12:00 テーマの主旨説明とグループ分け(3~4グループ)

<テーマの例>

- ・日本科学未来館と教育(社会人教育や学校教育とのかかわり)
- ・テクノロジーが伝える科学(どのように情報を創造するのか, テクノロジーの活用)
- ・「人」が伝える科学(日本科学未来館で働く人の役割・育成, 科学を伝えるとは)
- ・科学者の語り(科学者を見せる)
- ・学ぶ場としての日本科学未来館(高校生らが主体的に学ぶための場づくりと工夫)
- ・科学教育における企業との連携  
など

12:00-13:30 昼食+館内探索(テーマごとに分かれて作戦会議)

13:40-14:40 日本科学未来館のコンセプトについて

- ・Movement 進化する「運動体」
- ・Mobile 携帯しうる「知のツール」
- ・Media 創造するための「触媒」
- ・Meeting 英知の交差, 合流点 等

14:50-16:40 テーマ別ワークショップ1(テーマ深化と館内再探索)

16:40-17:00 中間報告会

17:30-19:30 懇親会(作戦会議を含む)

19:30 各自で宿泊場所へ

2月1日(日)

10:00 受付

10:10-10:20 事務連絡

10:20-11:50 事例提言

- ・「博物館と教育のかかわり」
- ・「地域との連携」
- ・「展示の工夫」 等

12:00-13:00 昼食

13:00-14:30 ワorkshop2 まとめ(資料作成)

- ・日本科学未来館から学んだもの
- ・日本科学未来館へのフィードバック

14:40-15:40 各グループからのプレゼンテーション

15:40-15:50 総括 企画委員会合宿担当幹事 原 克彦(園田学園女子大学)

15:50-16:00 閉会

日程等の最新の情報は, Web 上で公開していますので, ご覧になって下さい。

URL : <http://cert.shinshu-u.ac.jp/et/jet/2003/index.html>

# 日本教育工学会「秋の産学共同セミナー」実施報告

島田 範正（読売新聞東京本社・企画委員会委員）

11月20日、東京大学・山上会館で「教育ソフト鑑定団 - 現場で求められる教育用ソフトとは - 」と題し、恒例の秋の産学協同セミナーを開催した。学校の情報インフラが次第に充実するにつれ、その活用が課題になっている中、現場で役に立つ優れた教育用ソフトとは何かを明らかにしようとする狙い。すでに一定の評価を獲得している3種類の市販ソフトを相上に上げ、開発者と、教育工学会の研究者からなる「鑑定団」が多面的に意見を交わした。鑑定団員は大谷尚氏（名古屋大学）（本学会企画委員会委員長）を団長に、佐伯胖（青山学院大学）、村川雅弘（鳴門教育大学）、東原義訓（信州大学）の各氏。「鑑定団」という新たなモデルを採用した目新しさもあり、今回、初の有料制としたにも関わらず、94人の有料参加者があり、この分野への関心の高さがうかがわれた。

## 第1部・「教育ソフト鑑定団」

冒頭、大谷団長より、「今日の狙いはソフトの値踏みではない。あるべき教育ソフトを巡っての意見交換をテンポ良く和やかに進めるために鑑定団モデルをとった」と説明。これに続いて(1)「科学の不思議シリーズ」(データポップ)、(2)「イントラパケッツ」(JR 四国コミュニケーションウェア)、(3)「キッズウェアシステム」(ファースト)について各社の社長自らがエッセンスをプレゼンし、事前に各ソフトを検証済みの鑑定団員が評定、これに各社長が答えるという形式で進められた。

「科学の不思議シリーズ」の理科実験シミュレーションソフトを巡っては、鑑定団から、あまりに分かりやすく洗練されているソフトは、逆に「科学する心」を育てないのではないかと、実験をしなくて済んでしまうソフトではなく、実験したくなるようなソフトであるべきではないかと、との指摘が出た。開発者の深山照社長は「授業に適切に実験を取り入れ、成功させられる力量を持つ教師がどれだけいるかも問われる」とした。教室から地域まで情報の作成・発信・共有・交換を可能にする「イントラパケッツ」に関しては、このような学びを支援するコミュニティ作りソフトが増えようとの見方と共に、学びを深める仕組みが求められるとの注文がついた。新田久穂社長は「毎日使わざるをえない中で情報活用能力は確実に上がる」と述べた。校内グループウェアとも言うべき「キッズウェアシステム」について、一柳克社長は児童も教師も情報入力することで、教師にゆとりが生まれ、両者の関係が密接になるなどの特徴をあげた。鑑定団からは、教師に便利な点は認めつつ、「学校による児童・生徒管理」的な色彩が強まるのではとの懸念が出されたが、一柳氏はどこまで機能を生かすかは学校に委ねているとした。

## 第2部・パネルディスカッション

まず、村川氏が「ソフトにゲーム的要素を盛り込むことの是非」「開発者と利用者との間のズレをどう解消するか」「ソフトを使いこなす教師の力量」などを問題提起した。

ゲーム的要素については、「断片的知識を問うのは論外にしても、探求の筋道を辿るものは意味がある」「学習者の態度によって遊びにも学びにもなりうるため指導が問われる」などの見方が示された。利用者とのズレについては、開発者側から「教師によって考えが違い、折り合いをつけるのが難しい」との現実が述べられたが、ブロードバンドを活用するなどして双方の意図がうまく絡む仕組みの必要性が指摘され、教師も成果を報告するなどの協力が求められるとの考えも示された。さらに、理科に弱い教師の多いことを意識した作りも重要だとする指摘もあった。

また、開発者側から、行政はインフラ整備に偏重し、ソフトには予算を準備しないとする現実が提起された。鑑定団側は、「教師の力量があれば、素手でもいい教育が出来るというのは神話だ。保護者、地域がそうではないと声を上げるべき」「ソフト導入によって、学力が上がるというデータを示す必要がある」「生徒指導、教師の負担軽減などもデータで示す」などの声上がり、東原氏からは自らの実践例も示された。さらに「脳科学的、社会科学的に証拠立てるのが学会の課題になる」と白熱。最後に佐伯氏が「今は学び合い、面白がり合う『学びの時代』だ。それを可能にする学びソフトを考える出発点になった」と締めくくった。

## 反応と今後

セミナー終了後、企画委員五藤博義氏が参加者に感想を求めるメールを発信したところ、3分の2から返答があった。返答率の高さと共に、真摯なコメントが多く、教育ソフトへの関心の高さが示された。3割が「とてもよかった」とし、「よかった」を加えると好意的な評価は8割強だった。今後もこの課題を継続して取り上げていく必要性が強く感じられた。

## 日本教育工学会第10期第5回理事会議事録

日時：平成15年11月8日(土)16:00~17:30

場所：社団法人日本教育工学振興会(JAPET)

出席：清水康敬会長、近藤勲副会長、山西潤一副会長、大谷 尚、木原俊行、黒上晴夫、坂元 昂、澤本和子、正司和彦、鈴木克明、園屋高志、中村紘司、中山 実、前迫孝憲、美馬のゆり、横山節雄、小林常一事務局次長

欠席：生田孝至、池田 満、向後千春、三宮真智子、永岡慶三、南部昌敏、堀田龍也、村川雅弘、吉崎静夫

1. 第10期第4回理事・評議員会(合同)議事録の承認

2. 会員の移動について

新入会員17名(正会員9名、学生会員8名)、退会会員2名、種別変更3名を承認した。

3. 各種委員会報告について

(1) 編集委員会(中山、永岡、向後、〔坂元〕)

第27巻特集号(言語教育特集)の編集を終了した。次の「ICTを用いた科学技術教育」の特集号の編集にとりかかりたい。ショートレターの募集も予定中である。

会長から「20周年に向けたデータベースの作成」について補足発言があった。

(2) ニュースレター委員会(堀田、〔坂元〕)

会長(堀田理事の代理)より資料4の通り報告があり、承認した。

(3) 出版委員会(吉崎、生田、〔坂元〕)

坂元委員から「20周年企画とからめて進行したい。」旨発言があり、承認した。

(4) 企画委員会(大谷、美馬、南部)

○11月20日(木)産学協同セミナー 於：東京大学

○冬の合宿研究会：日本科学未来館で共同開催の形で実施したい。体験しながら検討し合う形で進めたい。平成16年1月31日(土)~2月1日(日)

○総会シンポジウム：大会企画と調整し、20周年企画を意識した計画を立てたいなど、資料5の通り報告と提案があり、承認された。

(5) 研究会委員会(正司、村川、黒上)

9月20日 鳥取大学で「情報教育と評価」についてパネルディスカッションを実施。

12月6日 北海道教育大学札幌校で「地域コミュニティの教育力」が計画。

1月24日 電気通信大学で「協調学習とe-pedagogy」でパネルディスカッション計画中。

3月20日 岐阜大学「教師の資質開発(教育方法、運営能力、責任)」をテーマに開催。

5月については、兵庫県内の大学を予定している。

(6) 大会企画委員会(園屋、鈴木、木原)

・大会盛大に終了の報告、謝辞(園屋委員長・鈴木理事)があった。参会者は800を超え、懇親会も400人近くが出席し盛会裏に終了した。

・基調講演は、木原委員が録画していたので、このテープを起こしたものをwebに掲載したい。

・今後大会企画委員の人は、20周年の記念大会としての企画もあるので検討中。

・大会企画展示を計画したい。

・従来賞の他、功労賞を出したい。

など補足があり、承認された。

(7) 学会ホームページ委員会(池田)

会長から、20周年記念事業として、会員だけが見ることのできるページを作るなど、システムを検討中。オープンなページとの切り分けなどを研究中との報告を承認した。

(8) 顕彰委員会(三宮)

研究奨励賞の推薦の依頼が、三宮理事からあった。

(9) 20周年記念事業について 会長から以下の報告と問題提起があった。

- ・ドメイン名 新しいドメイン名をすでに取得済みである。
- ・論文誌のデザイン変更とニューズレターの表紙のデザインを検討していきたい。
- ・原案を20周年記念事業担当と編集委員会・ニューズレター委員会で検討する。
- ・論文査読の経過なども投稿者にわかるようなシステムを検討中である。
- ・メールマガジン・電子掲示板などは、会員向けに考えたい。
- ・定款の改定なども必要に応じて検討をする。

4. その他

・後援名義使用の承諾について

第9回技術者継続教育国際会議(WCCEE) 社団法人日本工学教育協会

IT活用日本語教育基礎研修「コンピュータと新日本語教育2003」 独立行政法人国立国語研究所

・今後の理事会の日程について(次回から開催時間を変更)

第10期第6回理事会:平成16年1月10日(土)15:00~17:00

第10期第7回理事会:平成16年3月27日(土)15:00~17:00

以上

新入会員 (2003年10月12日~11月8日)

■ 正 会 員 9名

- 秋本 弘章(獨協大学)
- 伊藤 久祥(岩手県立大学)
- 稲葉 光行(立命館大学)
- 梅津 健志(柏市教育委員会)
- 越川 浩明(千葉大学)

- 二瓶 文博 (NTTアドバンステクノロジー(株))
- 前田 啓朗(広島大学)
- 村木 英治(東北大学)
- 湯藤 元彦(広島県立教育センター)

■ 学 生 会 員 8名

- 折茂 美保(東京大学大学院)

- 小谷 哲郎(電気通信大学)
- 五島 讓司(早稲田大学大学院)
- 坂元 久美子(横浜国立大学大学院)
- 竹内 千乃(金沢大学大学院)
- 田中 貴博(青山学院大学大学院)
- 藤井 晶美(大阪大学)
- 藤澤 和子(同志社大学大学院)

学会日誌

- 1月24日(土)研究会「協調学習とe-Pedagogy」(電気通信大学)
- 1月31日(土)~2月1日(日)冬の合宿研究会(日本科学未来館)
- 3月20日(土)研究会「教師の資質開発(教育方法, 運営能力, 責任)」(岐阜大学)
- 3月27日(土)理事会・編集委員会(JAPET)
- 6月19日(土)総会・シンポジウム(東京工業大学)
- 9月23日(木)~25日(土)第20回全国大会(東京工業大学)

お問い合わせ先(Eメールアドレス)

- 論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会(jet-editor@japet.or.jp)
- 研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局(jet-branch@nime.ac.jp)
- ニューズレター編集に関するお問い合わせ・・・ニューズレター編集委員会(jet-news@japet.jp)
- その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局(jet-office@japet.or.jp)

ニューズレター編集委員会

編集長:坂元 昂, 編集委員長:堀田龍也, 委員:小柳和喜雄, 石塚丈晴  
静岡大学情報学部堀田研究室 FAX: 053-412-6558 E-mail: jet-news@japet.jp

日本教育工学会ニューズレター No.126

2004年 1月14日 発行人 清水 康敬  
発行所 日本教育工学会事務局  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル) 2階  
TEL / FAX: 03-5251-2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp  
http://www.japet.or.jp/jet/ 郵便振替 00180-0-111042